

同友ごてんば速報版

県事務局御殿場支部担当 佐藤 靖真

<第301回>3月支部例会

『未来への危機管理』

中小企業の環境への取り組み方

【講師】平沼 辰雄氏 株式会社リバイブ 代表取締役



<講師 平沼 辰雄氏>



<バズセッション中の様子>



<当日はエコ活動の展示も>

3月10日(水) 第301回 同友会御殿場支部3月例会が、エピ・スクエアにて開催され、講師に平沼 辰雄氏(株式会社リバイブ 代表取締役 中同協 地球環境委員会 委員長)をお招きし講演していただきました。今当たり前のように、石油を中心としたエネルギー資源を使い事業活動を行っていますが、エネルギー資源がなくなったら…。お考えになったことはありますか？

環境経営とは、環境に考慮した経営ではなく、「省エネ」、「省時間」、「省資源」、「低廃棄物」で経営の効率化を図り、リスクを低減する経営。環境を企業戦略として積極的に取り組み環境対応(製品)を武器として企業成長していく事が大きな意味での環境経営であるそうです。

世界同時不況といわれる中で、実際の各国の成長率をみると実際には世界同時不況下でも成長している国はあり日本は、マーケットの視点を成熟した欧米諸国へ高付加価値製品を輸出する高い目線から東アジアを中心とした発展途上国の低い目線にシフトする必要があると仰いました。

その中で、実際に(株)リバイブ(リバイブ…回復・復元の意)が行っている事業の取り組みについて報告をしていただきました。企業理念は「地域から地球へ 地球クリーニング」自然環境の回復復元に挑戦し、「善・循環型社会」の実現を目指しています。善・循環型とは、「廃棄」を消費の終点として見るのではなく、始点として考え資源を有効に使った、廃棄物になりにくい製品づくりを行い、「廃棄」「資源」「製造」「消費」それぞれがそれぞれの視点を考えながらコミュニケーションを行える社会の事。(株)リバイブでは環境共生型の提案やコミュニティ創出事業、食農循環までも手がけています。

今までは、外需に頼った産業から稼ぎ、資源や食料を買っていたが、それが「いつ」終わるのかわからない。たしかに目に見えてすぐには変わらないかもしれないが、ある時を境に急激に悪くなる。その危機感を皆で共有し、すぐ近くまで、危機が迫っている感覚を持つことができるか？我々経営者がこれからの未来をどうするか？と真剣に諦めずに色々な事を仕事創りをしながら皆さんの知恵を出し合えば、いくらでも地域で仕事ができる。大切なのは事業と環境を如何に結び付けられるかを絶えず考え続ける事が大切。と講演していただきました。

バズで出た質問についての回答は近日(株)リバイブのブログで公開予定との事です。

(株)リバイブホームページ <http://www.revive.co.jp/index.html>